

## 「75歳以上の医療費負担2割化」法案の採決に抗議し、

### 1割負担に戻すことを求めます

私ども高知保険医協会は、高知県内約570名の医師、歯科医師の団体で、自らの経営を守るとともに、国民・県民の医療の充実をめざして活動をしています。

この度国会で、75歳以上の方の医療費の窓口負担を一部2割とする内容を含む健康保険法等の一部改正法案が可決成立させられました。私どもは、この国会での採決に抗議し、75歳以上の医療費負担2割化を決して実行せず、再度1割負担に戻すことを求めます。

今回の「75歳以上の医療費負担2割化」は、「現役世代の負担軽減のため」と、その理由が説明されてきました。しかし、今回の措置によって現役世代が「軽くなる」とされる健康保険料の負担軽減は、わずか月30円程度であることが示されました。また国会質疑の中では、「2割化」による受診控えで給付費を年1050億円(900億円)削減できる推計されていることについて、それだけの受診控えが起きることを十分に検討すらしていなかったことが明らかになりました。そもそも年収200万円の方が「負担能力がある」とされたが、応能負担を言うのであれば、少なくとも窓口負担ではなく保険料の検討がされるべきです。こうした問題の徹底審議も行わず、今でさえ受診控えの中にいる国民にさらに大きな負担をかぶせようとする法律を可決することは、コロナ禍で生活に大きな不安を抱える国民に背を向けるものです。

私どもは、来年10月以降とされている「75歳以上の医療費負担2割化」の実施に引き続き反対するとともに、受診控えによる健康被害を防ぐための手立てを尽くします。そして、日本国民の健康長寿を支えてきた国民皆保険制度を守り、誰もが安心して医療を受けられるよう、政治が果たすべき役割も求めていきます。

2021年 6月 4日